



TOPICS

ベンテイガ、 ついに日本で正式発表

— Bentayga Debut in Japan —



CONTENTS

1 TOPICS —
ベンテイガ、
ついに日本で正式発表

2 COMPETITORS —
アウディ S8 plus



3 MOTOR SPORT —
ニュルブルクリンク 24 時間で
7 位入賞

4 TECHNOLOGY —
ベントレーの PHEV 構想

5 LATEST NEWS —
コラボブランド物語
セントレジスホテル編 他



6 BASIC KNOWLEDGE —
PIRELLI ピレリ

ベントレー モーターズ ジャパン (BMJ) は6月9日、都内でベンテイガのプレス発表会を開催しました。

「Be Extraordinary Tour」と銘打たれた発表会の冒頭では、BMJ代表のティム・マッキンレイが挨拶に立ち、「ベンテイガは最先端技術とクラフトマンシップの融合したベントレー初のSUVです。パワフルな走りとラグジュアリー性を兼ね備えたこのモデルは、さまざまなライフスタイルや使用状況でもお客様に満足していただけていると思っています」などと語りました。

続いてBMJのアカデミーマネージャーの横倉典がベンテイガの特徴について説明しました。まずは2012年ジュネーブ・モーターショーで発表したEXP 9Fが市場から好意的に受け止められたこと、ベントレーのSUVとしてデザインを再定義して練り直した経緯、車名「ベンテイガ」の由来などについて

て解説。次に、ベントレーの他のモデルも含めたベンテイガのポジショニングなどについて、W.O.ベントレーの「良い車、速い車、そしてクラス最高の車を作る」という哲学をあらためて紹介したうえで、ベンテイガが「個性的・優美・パワフル」な「真のラグジュアリー SUV」であることを強調しました。さらに内外装、エンジン、シャシー、安全装備、ビスポークなどにおけるベンテイガの特筆すべきポイントを紹介。特に6.0リッターW12エンジンや48V電気式アンチロールバーなどの装備が、ベンテイガ用に新たに開発されたものであることをアピールしました。

その後、写真撮影と車両の確認となりましたが、出席した121名のプレスの方が真剣に車両を見る表情から、ベンテイガが高い関心を持たれていることがわかりました。

なお、7月22日にリテーラーのセールススタッフを

対象とした「Bentayga 実車研修」を千葉県の手賀池フォレストレースウェイで実施します。新機能の一部を実際に体験できる研修で、装備品や新機能に関する不明点を共有できる機会なので、ぜひご参加ください。



夜にはお客様向けの パーティを開催

プレス発表会と同日の19時からは、お客様向けのベンテイガ発表パーティを開催し、125組245名のお客様にお越しいただきました。プレス発表会と同様にBMJ代表のマッキンレイの挨拶に始まり、横倉マネージャーがベンテイガのプレゼンテーションを行いました。立食形式でお食事やお飲み物を楽しんでいただく時間に車両も確認いただいたほか、エンターテイメントとしてジャズ・ライブも披露。21時までの2時間、ベントレーの世界観を心ゆくまで堪能していただきました。



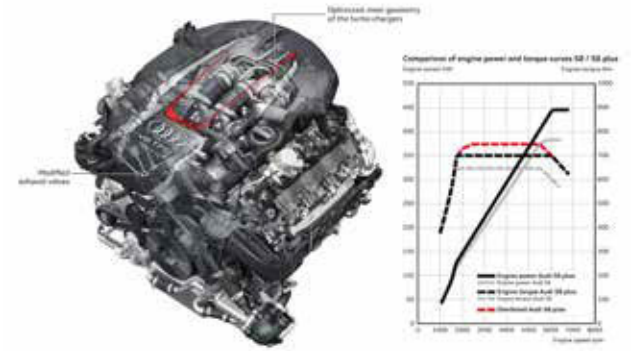
COMPETITORS INFORMATION [競合車情報]

スーパースポーツの性能を備えたプレステージサルーン ――アウディ S8 plusの特長――

アウディ ジャパンは、2015年に本国発表されたアウディのフラッグシップモデル、アウディ S8 plusを導入しました。同社のSモデルは各シリーズにおける上級モデルとして設定され、その上にアウディの子会社quattro GmbHが手がけるRSモデルが設定されています。現在、アウディ A8/S8にはRSモデルの設定はありませんが、このS8 plusは実質的なRSモデルであり、従来のS8に代わる同社の新たなフラッグシップモデルとして位置付けられます。

パフォーマンス

アウディ S8 plusの最大の魅力は、怒濤のパワーを発揮する強力なエンジンです。S8に搭載される4リッター V8 DOHC インタークーラー付きツインターボエンジンは、アウディとquattro GmbHがターボチャージャーや排気バルブなどの改良を施したことでさらなるブーストアップを実現。最高出力はS8の520psから85psアップとなる605psに向上し、最大トルクも650Nmから50Nmアップの700Nmを発揮します。さらに短時間のみ使用可能な“オーバーブーストモード”では、最大トルクは750Nmにまで増強されました。



アウディ S8から85psアップの605psを発揮する4リッター V8 TFSIユニット。オーバーブーストモード使用時の最大トルクは750Nmで（通常は700Nm）、S8から実に100Nmの増強にあたる。

この結果、0-100km/h加速は3.8秒、最高速度は305km/hを実現しています。ちなみに0-100km/h加速3.8秒は、メルセデスAMG GT S、ポルシェ911 Rと同タイム。最高速度305km/hは、ベントレー・ミルザヌ・スピード、BMW M6 グランクーペなどと同じです。最大の競合車となるメルセデスAMG S 63 4MATICとの比較では、最高出力は20ps高く、最大トルクでは200Nm下回り、0-100km/h加速では0.2秒、最高速度では5km/h上回るという内容。ほぼ互角の速さといえるでしょう。また、気筒休止システム（シリンダーオンデマンド）、スタートストップシステムなどの採用により、高性能化と高効率化の両立を図っています。

シャシー

フルタイム4WDシステムの「quattro」には、状況に応じて左右後輪へのトルク配分を制御するリアスポーツデファレンシャルを装備しています。さらに状況に応じて減衰力を無段階に変化させる電子制御アダプティブダンピングエアサスペンションを採用。優れたハンドリングとコーナリング性能、そして快適な乗り心地を両立しています。また、動力性能の向上に合わせて、ウェーブデザインのディスクローターが特徴的なセラミックブレーキを標準装備しています。

エクステリア



S8 plusのタイヤサイズは275/35ZR21。写真のエクステリアミラーハウジングカーボンは、220,000円のオプション装備。



FEATURE 1

アウディ S8から85ps、50Nm出力増強した新エンジン

FEATURE 2

気筒休止とスタートストップによる高効率化

FEATURE 3

高性能を細部の質感で主張する高品質な内外装

アウディを象徴するシングルフレームグリルは、フレームとトリムをグロスブラック、ハニカム部分をマットブラックとすることで精悍な印象を高めています。また、バンパー下部のブレードやエアインテークまわりにはカーボンパーツを使用。高性能をさりげなく主張しています。



A8のクロームパーツをブラックアウト化することで、フォーマルかつ精悍でスポーティな印象を醸し出している。なお、無償オプションのS8スタイリングパッケージを選択すれば、グリルやウィンドウトリム、エクステリアミラーハウジングなどがシルバー仕上げとなる。

リアまわりでは、カーボン製ディフューザー、リアスポイラー、スモーク仕様のコンビネーションランプなどを装備。さらにウィンドウトリムもブラックアウトされ、A8との明確な差別化が図られています。

インテリア



上質なバルコナレザーを使用し、クロスステッチを施したコンフォートスポーツシートとフルレザーパッケージは標準装備。

インテリアでは、フラッグシップモデルにふさわしく、ダッシュボード上面までレザー張りとしたフルレザーパッケージを標準装備。シート表皮は上質なバルコナレザーで、前席はホールド性と快適性を併せ持つコンフォートスポーツシートを採用しています。

価格

4月19日に発表・発売されたアウディ S8 plusの車両本体価格は20,080,000円（税込）。標準装備品は充実しており、オプションはサンルーフ、カーボン製のミラーハウジングおよびリアスポイラー、カーボン製デコラティブパネル、Bang & Olufsen アドバンスト サウンドシステムなどに留まります。ちなみに直接競合するメルセデスAMG S 63 4MATICの車両本体価格は24,830,000円。スーパースポーツに匹敵する動力性能を考慮すれば、比較的リーズナブルといえるかもしれません。

主要諸元

Audi S8 plus	
DIMENSION	全長：5,145 mm
	全幅：1,950 mm
	全高：1,455 mm
	ホイールベース：2,995 mm
	トランク容量：520 L
ENGINE	車両総重量：2,110kg
	形式：V型8気筒DOHCインタークーラー付ターボチャージャー
	排気量：3,992cc
	最高出力：605ps（445kW） / 6,100-6,800rpm
	最大トルク：700Nm/1,750-6,000rpm
	トランスミッション：8速オートマチック（ティプトロニック）
PERFORMANCE	最高速度：305km/h
	0-100 km/h加速：3.8秒

NEW MODEL INFORMATION [新型車情報]



ニューモデル

メルセデス・ベンツSクラス カブリオレ

発表・発売日	6月2日 発表・発売		
概要	<ul style="list-style-type: none">・ 44年ぶりに復活したラグジュアリー 4シーターオープンモデル・ 静粛性の高い3層構造のソフトトップと、クーペと同等のボディ剛性および軽量化を実現・ 特別限定車 メルセデス AMG S 63 4MATIC カブリオレ Edition 130を8台限定発売		
車両価格 (税込)	S 550 カブリオレ:	21,450,000円	
	メルセデス AMG S 63 4MATIC カブリオレ:	27,500,000円	
	メルセデス AMG S 65 カブリオレ:	34,170,000円	
	メルセデス AMG S 63 4MATIC カブリオレ Edition 130:	32,510,000円	
デリバリー 開始時期	10月中旬以降		



装備拡充

メルセデス AMG GT

発表・発売日	4月27日 発表・発売		
概要	<ul style="list-style-type: none">・ AMG GTにベーシックパッケージ、メタリックペイントを標準化・ AMG GT Sにエクスクルーシブパッケージ、メタリックペイントを標準化・ メルセデスAMG GT S 130th Anniversary Editionを期間限定発売		
車両価格 (税込)	メルセデス AMG GT：	16,500,000円	
	メルセデス AMG GT S：	19,300,000円	
	メルセデス AMG GT S 130th Anniversary Edition：	21,400,000円	
デリバリー 開始時期	—		



ニューモデル

ジャガー Fタイプ SVR

発表・発売日	6月1日 受注開始		
概要	・ 同社のスペシャル・ビークル・オペレーションズ (SVO) が設計・製造したジャガー史上最も速くパワフルなモデル ・ 5.0L V8 スーパーチャージドエンジンは575ps、700Nmを発揮 ・ 0-100km/h 加速3.7秒。最高速度はクーペが322km/h、コンバーチブルが314km/h		
車両価格 (税込)	F-TYPE SVR COUPÉ:	17,790,000円	
	F-TYPE SVR CONVERTIBLE:	19,300,000円	
デリバリー 開始時期	—		



特別仕様車

ポルシェ・カイエン プラチナエディション

発表・発売日	6月2日 受注開始		
概要	<ul style="list-style-type: none">・ カイエンとカイエンS E-ハイブリッドに充実装備を施した特別限定車・ 「RSスパイダー」デザインの20インチホイール、PDLS内蔵バイキセノンヘッドライトを装備したエクステリア・ 8-way電動レザースポーツシート、ポルシェクレスト入りヘッドレストなどを備えたインテリア		
車両価格 (税込)	カイエン プラチナエディション:	9,440,000円	
	カイエンS E-ハイブリッド プラチナエディション:	12,570,000円	
デリバリー 開始時期	—		



特別仕様車

BMW 750Li Celebration Edition “Individual”

発表・発売日	7月9日 発売		
概要	・ BMWの創立100周年を記念した、70台限定の特別限定車 ・ 厳選素材と手作業により仕立てられる「BMW Individualプログラム」から様々な装備品を採用 ・ リモコン操作で車外から駐車を行える量産車初の「リモート・パーキング」を採用		
車両価格(税込)	18,800,000円		
デリバリー開始時期	—		



特別仕様車

BMW i8 Celebration Edition “Protonic Red”

発表・発売日	5月30日 発売		
概要	・ BMWの創立100周年を記念した、20台限定の特別限定車 ・ BMW iとして初採用となる赤色の専用ボディカラー「プロトニック・レッド」を採用 ・ 専用の内外装に加え、次世代ライト技術「BMWレーザー・ライト」を標準装備		
車両価格(税込)	22,000,000円		
デリバリー開始時期	10月以降		

MOTOR SPORT [モータースポーツ]

ニルブルクリンク 24時間で7位入賞

5月26日～29日にドイツのニルブルクリンク・ノルドシュライフェで行われたニルブルクリンク24時間レースで、パートナーチームの「ベントレー・チーム Abt」のコンチネンタルGT3 (38号車) が7位に入賞しました。ドイツポストのイエローにカラーリングされたコンチネンタルGT3は、エントリーした英国車ではトップ、そして地元ドイツ勢の多くを後ろに從えてのフィニッシュとなりました。ドライバーはGuy Smith (英)、Fabien Hamprecht (独)、Christian Menzel (独)、Chris Bruck (独) の4人で、131周を走破しました。

レースはレッドフラッグが振られるほどの豪雨に見舞われるなど、例外

と言ってよいほど厳しいコンディションでしたが、7位の38号車だけでなく106番手スタートとなった37号車も17位まで順位を上げて見事完走。2台ともトップ20入りしました。

ベントレーのモータースポーツ責任者であるBrian Gushは、「ニルブルクリンク24時間で成功するには最低でも3年の計画が必要。それでも今年はトップ10入りし、トップ5までもう少しというレースができました。2台とも完走という結果を誇らしく思っていますし、来年に向けたデータ収集と経験を積めたことは大きいです」などとコメントしました。



GTアジア・タイラウンドでは連続表彰台

6月10日～12日にタイ・プリラムで開催されたGTアジアの第3・4戦では、チーム・アブソリュートのコンチネンタルGT3が2戦連続で表彰台に乗りました。

第3戦は9号車のTappy/Inthraphuvasak組が2位、7号車のFong/Kim組が3位と大健闘。第4戦は9号車のTappy/Inthraphuvasak組が第3戦に続いて2位に入りました。韓国ラウンドで日本人ドライバーの澤圭太選手と組み2連勝をマークしたVenter選手は、今回はHamprecht選手と組んで8号車で出走。第3戦は9位、第4戦は11位でした。

ドライバーズタイトル争いではVenter選手が41ポイントで1位のまま。7月に岡山と富士で開催される日本ラウンドでは澤選手とのコンビが復活することが予想されます。念願のシリーズタイトル奪取に向け、チーム・アブソリュートへのご支援をよろしくお願いします！



TECHNOLOGY [テクノロジー]

ベントレーのPHEV構想
ラインナップの強化と革新のイメージ醸成へ

世界中で排出ガスに関する法や規制が強化されていくなかで、プラグイン・ハイブリッド車（PHEV）の人気は高まっています。この技術がベントレーのネットワークに影響をもたらすのはまず間違いありません。ベントレーは、ラグジュアリーセグメントのなかで先頭に立ってPHEVをけん引するべきだと考えています。PHEVをリリースすることで新たなセールス機会を得て、ベントレーの革新性に対する名声をより強固なものにすることができるのです。PHEVの導入時期など詳細は未定ですが、「ベントレーのPHEV」がどのようなものになるか、ディーラーマーケティングニュースに掲載された英国本社の構想をご紹介します。



⚡ ベントレーのPHEVとは？

Plug-in Hybrid Electric Vehicle

プラグイン・ハイブリッド・エレクトリック・ビークル。この頭文字をとって「PHEV」と呼んでいます。一般的にPHEVは以下の特徴があります。

- 内燃エンジンと電気モーターを備えている
- 大容量高電圧バッテリーを備え、電源プラグから充電できる
- **電気モーターのみで50km**まで走行可能
- プラグイン・ハイブリッドの技術は、市街地走行と長距離走行における理想的な解決法

⚡ ベントレーにおけるPHEVのポジショニング

- PHEV投入によるベントレーのラインナップ強化
- すでにPHEVを導入しているプレミアムカーブランドとの競争
- **ベントレー初のPHEVはベンティガ**とする（導入時期などは未定）
- CO₂排出量が最も少ないベントレーとする（目標値：66g CO₂/km）
- CO₂排出量の目標値を達成し、規制などに準拠し続ける
- 「革新」「信頼」というイメージの強化
- 「ドライビング・ラグジュアリー・パフォーマンス」と「持続可能性」を通じた新たなセールス機会の創出
- 競合ブランドへの顧客の流出阻止（あらゆる顧客に対して完璧な選択肢として提案）

PHEVはベントレーの「革新」と「信頼」を重んじるブランド戦略において重要な位置づけとなっています。また、PHEVは世界中の国々で将来もベントレーがビジネスを持続するための計画の一部でもあります。

⚡ PHEVでベントレーが得るもの

革新的な技術

ラグジュアリーセグメントで初めてのPHEVを発表することで**ベントレーの革新性をアピール**

提案できるメリット

市街地での自由度とコスト削減（例：混雑時）

パフォーマンス

郊外での電気モーターによるパフォーマンス

社会的責任

環境保護への責任と持続可能性を実現する技術への投資

社会からの受容

ラグジュアリーを求めるお客様に対する持続可能なライフスタイルの提案

税制面でのメリット

コストの削減（例：異なる市場での税）

これらを実現し、2020年までには90%のベントレーでプラグインハイブリッドを選ぶようにします。

⚡ 2014年北京でPHEVコンセプトカーを発表

ベントレーがPHEVを初めて発表したのは、2014年の北京モーターショーでした。この時は「ミュルザンナ プラグインハイブリッド コンセプト」を展示。内外装の随所にミュルザンナ存在感を際立たせる「カッパー（銅）」のアクセントを配し、大きな注目を集めました。ミュルザンナのPHEVの市販化は計画されていませんが、ベンティガにプラグインハイブリッドシステムを搭載することを発表しました。ミュルザンナ プラグインハイブリッド コンセプトの詳細は、Dealer Academy News 2014年4月30日号（No.16）と2014年5月31日号（No.18）を参照してください。



⚡ 競合ブランドのPHEV

ボルシェやBMWではすでにPHEVが市販化されています。その動向を知っておくことは、ベントレーのPHEVが発表された際にセールス活動を適切かつ迅速に開始することにつながります。

	メルセデス・ベンツ S550 e	BMW i8	ボルシェ パナメーラS E-ハイブリッド
価格	16,380,000円	19,660,000円	14,980,000円
駆動方式	FR	4WD	FR
エンジン	形式	DOHC V6ツインターボ	直列3気筒 DOHC
	排気量 (cc)	2,996	1,498
	最高出力 (ps[kW]/rpm)	333[245]/5,250-6,000	231[170]/5,800
	最大トルク (Nm[kgm]/rpm)	480[48.9]/1,600-4,000	320[32.6]/3,700
モーター	種類	交流同期電動機	交流同期電動機
	定格電圧 (V)	396	N/A
	出力 (ps[kW])	115 [85]	131 [96]
	トルク (Nm[kgm])	350 [35.7]	250 [25.5]
EV走行換算距離 (等価EVレンジ) (km)		29.1	40.7

LATEST NEWS [最新情報]

APPLICATION

Apple Watchに
ベンティガ用アプリ登場

ベントレー モーターズはこのほど、ベンティガ用のApple Watchアプリを発表しました。これによりベンティガのオーナーはスマートウォッチからベンティガの車内システムを操作できます。

ベンティガのために専用に開発されたアプリでは、車内温度、エンターテインメントシステム、シート（ヒーター、ベンチレーター、マッサージ機能）、車速や走行距離、外気温度といった車両情報のモニタリングなどを行うことができます。ベンティガとはBluetoothで接続し、Apple Watchと車両のタッチ・スクリーン・リモート（TSR）を同期させて使用します。

ベントレーの電気・電子装備部門のディレクターであるDan Whittakerは「ベンティガは技術面でも進歩しており、ベントレーだけが実現できる方法でこれをラグジュアリーと結びつけています。Apple Watchのコネクティビティは、お客様の体験をさらに充実したものにするための一例といえます」などと語っています。



EVENT

グッドウッド・フェスティバルで
新型3モデルがUKデビュー

英国グッドウッドで6月23日～26日に開催されるグッドウッド・フェスティバル・オブ・スピード（FOS）に、ベントレーから新型3モデルがUKデビューを果たしました。

UKデビューしたのはベンティガ、フライングスパー V8 S、コンチネンタルGT Speedの3モデル。グッドウッドFOSでおなじみのヒルクライムでベンティガをドライブするのは、ル・マンやF1などで活躍した英国人レーサーのDerek Bellです。フライングスパー V8 Sの加速力や、ベントレー史上最高のコンチネンタルGT Speedの走りで観衆を沸かせました。また、かつてル・マンでTim Birkinがドライブした4.5リッター「ブローワ」や、現代のベントレーボーイであるDavid BradhamがドライブするコンチネンタルGT3も参加。新旧レースカーの共演でイベントを盛り上げました。ベントレーのスタンドでは、プレオウンドカーが展示されたほか、ベントレーのクラフトマンシップを間近に見られる展示などで来場者を楽しませました。

なお、6月24日にはピーター・ブレイク卿によるデザインのコンチネンタルGT V8 S コンバーチブルのオークションが、ベントレーのスタンドで行われました。収益金は全額が世界中でホスピスおよび緩和ケアを提供する慈善団体Care2Saveに寄付されます。



COLLABORATION

コラボブランド物語

セントレジスホテル編

2016年5月、セントレジス・ドバイに中東エリア初の「ベントレースイート」が誕生しました。このスイートルームはミュルザンヌのビスポークのクラフトマンシップからインスピレーションを得てデザインされています。セントレジスホテルとベントレーのコラボレーションにより、究極のラグジュアリーとホスピタリティが表現されています。

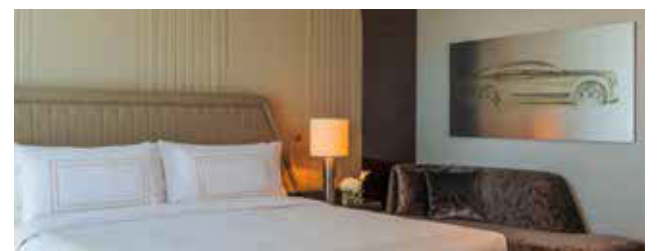
セントレジスは、シェラトンやウェスティンといった世界的なブランドのホテルを経営するスターウッド・ホテルズ&リゾーツ傘下のホテルブランドで、全世界に57軒を展開。高級ホテル揃いのスタッドグループのなかでは、セントレジスは「伝統的なラグジュアリーホテルブランド」として知られています。今では日本でもポピュラーになったカクテルに「ブラッディーマリー」がありますが、これは1934年にセントレジス・ニューヨークのキングコールバーでレシピが完成されたもの。セントレジスブランドを代表するカクテルとして、各地のセントレジスホテルで



オリジナルの味を楽しむことができます。

2012年にベントレーとのコラボレーションが実現し、セントレジス・ニューヨークにベントレースイートが誕生するほど良好な関係を築けたのは、伝統と格式を守りながら現代にアジャストするための進化を続けているセントレジスの理念があったからにほかなりません。これは、W.O.ベントレーの理念を現代の車に巧みに取り入れているベントレーの哲学と完全に一致します。

現在セントレジスでは、各ホテルの専用車にベントレーを採用。空港とホテル間の送迎や、特別なイベントへのスタイリッシュな到着の演出などに利用されています。また、ベントレースイートはドバイのほか、セントレジス・ニューヨークとセントレジス・イスタンブールで利用可能。いずれもセントレジスならではの極上体験に加え、室内各所にベントレーのクラフトマンシップが光る洗練されたディテールを楽しむことができます。




BASIC KNOWLEDGE [基礎知識]

The Parts Supplier of Bentley Vol.1



ピレリ

設計から R & D、エンジニアリング、製造まで、一貫して Crewe で行うのが Bentley の特徴です。しかし、専門的な部品については、共同開発と入念なテストを経て専門メーカーから供給を受けています。そんなパーツサプライヤーメーカーを紹介する「The Parts Supplier of Bentley」。第1回はピレリです。



ピレリタイヤの歴史

ピレリ社は 1872 年にイタリア・ミラノで創業。144 年の歴史を持ち、世界 160 カ国に拠点を構え、20 の工場を有する世界第 5 位のタイヤメーカーです。製品開発の場としてモータースポーツにも積極的に参戦し、独自のチントゥラートラジアル技術や、それをベースにした低扁平タイヤをリリース。1987 年に発売された「P Zero」は、改良を重ねながらプレステージカー向け超扁平タイヤとして現在も高い信頼を集めています。現在、単独タイヤサプライヤーとして F1 と二輪のワールドスーパーバイクレースにタイヤを供給。タイヤとは別に、1964 年から半世紀以上に渡って制作を続けている「ピレリカレンダー」も、その芸術文化性の高さから世界中のメディアやユーザーから高い評価を得ています。

ベントレー純正装着「P ZERO」の基本性能

1987 年の登場以来、プレステージカー向けハイパフォーマンスタイヤとして高い人気を集めて来たピレリ「P Zero」。時代に合わせて改良を重ねられ、2007 年に現行「P ZERO」にモデルチェンジされました。

伝統の左右非対称パターンは、優れたトラクション性能と制動力を確保しながら、雨天時の耐ハイドロブレーニング性能、低ノイズ、耐久性を実現するためのもの。ショルダー部分は溝の少ない頑丈なブロック形状とし、強いコーナリングフォースをしっかりと受け止める構造になっています。また、超高速時に遠心力によってタイヤが膨らんで接地面積が減少しないよう、そもそも膨らみ難い基本構造を採用するとともに、膨らむ分を見越してショルダー部を若干高くした左右非対称プロファイルになっています。

このように、「P ZERO」は高性能モデルに必要な駆動力、制動力、コーナリング性能と、重量車を受け止める剛性、プレステージカーに欠かせない静粛性、そしてウェット路面における安定性を高いレベルでバランス。まさにベントレーに最適なタイヤに仕上げられています。

P ZERO の特徴



- A 3列の大型リブブロック**
卓越したトラクションとブレーキング
- B 大型のリジッドブロック**
スポーツ走行時の安定したハンドリング
- C Sシェイプトレッドデザイン**
直進時・コーナリング時を問わず高いブレーキングの安全性
- D 3本の太い縦溝**
アクアブレーニング現象が発生しそうな状況下における安全性とコントロール性を向上



SUV 向けタイヤの特徴とは

ベンティガには SUV 向けに開発された「SCORPION VERDE」（スコーピオン・ヴェルデ）が標準装備となっており、お客様のご要望により納車時に「P ZERO」が無償で選択できるようになっています。このベンティガの登場により、セールスマンには SUV 向けタイヤの知識も必要になって来ました。

SUV の特徴は、相対的に車重が重いことと、コーナリング時の荷重移動が大きい点にあります。そのため、タイヤには車重に合わせた全体の剛性向上に加えて、偏摩耗や腰砕け感を防ぐためにショルダー部分の剛性をさらに高める必要があります。

スコーピオン・ヴェルデもその基本性能を押さえつつ、シリカを配合したトレッドコンパウンドやピッチ（溝）配列の最適化、原材料やプロファイルの入念な検討により、SUV タイヤにありがちな走行ノイズを低減。重い車重に起因する燃費の悪さや転がり抵抗の大きさ、摩耗の問題に対しても、可能な限り低減できるようタイヤの側からフォローしています。

SCORPION VERDE の特徴



- A 適正化されたピッチ配列と位相合わせ**
車内騒音の低減
- B 最適化されたプロファイルと革新素材**
燃料消費量および CO₂ 排出量を低減
- C 専用のショルダープロファイル**
大型 SUV でも高い安定性



OEM タイヤは一般市販タイヤと同じ？

新車時に装着されている、あるいはメーカーから純正部品として供給されるタイヤのことを OEM タイヤと呼びます。「P ZERO」も「SCORPION VERDE」も一般ルートで販売されており、街のタイヤショップで購入することができますが、果たして OEM の「P ZERO」とタイヤショップで購入する「P ZERO」は同じタイヤなのでしょうか？ それは必ずしも同じではありません。

自動車メーカーは、クルマの開発段階から装着するタイヤを決定し、それに合わせてシャシーやサスペンション、ブレーキ、セーフティ&アシストシステムなどのセッティングを煮詰めていきます。その段階でタイヤ側の仕様を微調整して目的の性能に近づけていくことが少なくありません。また、タイヤの仕様変更の有無、変更した場合の内容は公表されないのが普通です。従って、自動車メーカーが想定した性能を 100% 引き出すには、純正タイヤがいちばん確実であり、間違いのない選択であることを改めて認識しておいてください。

